

カルメル

霊性センターニュース



Angelico

Annunciazione (detti)

フラ・アンジェリコ画 「受胎告知」

2021年1月

371号

【教会からの巻頭のことば】

聖ヨセフ特別年にあたって

教皇フランシスコは12月8日、聖ヨセフがカトリック教会の保護者として宣言されてから150年を迎えるにあたって、2020年12月8日から2021年12月8日を「ヨセフ年」とすることを宣言しました。

教皇聖ヨハネ・パウロ二世 使徒的勸告『救い主の守護者聖ヨセフ』から
第6章 現代における教会の保護者

教会にとって困難な時代に、教皇ピオ九世は教会を太祖聖ヨセフの特別な保護にゆだねることを望んで、ヨセフを「カトリック教会の保護者」と宣言しました。同教皇は、別に変ったことをするのではないということをよくわかって、この宣言を行いました。なぜなら教会は、神が最も忠実なしもべヨセフにたまわった崇高な品位のために、「いとも聖なるヨセフをその花嫁、神の母おとめマリアの次に、つねに最高の誉れと称賛をもって敬い、不安なことがらにおいては、その取次ぎを願ってきたからです」。

どのような理由で、教会はヨセフに対してこのような信頼をもっているのでしょうか。教皇レオ十三世はその理由を次のように説明しています。「どうして聖ヨセフは特別に教会の保護者とされているのか。またどうして教会はたびたびその世話と保護を願うのだろうか。それは、彼がマリアの夫、またそう思われていたように、イエス・キリストの父だからである。(中略) そのことから次のような彼の任務が生じた。すなわち、自分が家長となっていた聖なるナザレの家庭の正当かつ当然な守護者、世話人、擁護者としての任務である。(中略) かつて聖ヨセフは、どのような事態が生じても、ナザレの聖なる家庭をつねによく世話していた。そのように、今も、彼がキリストの教会を天からの保護によって守り、擁護してくれるのは当然なことであり、また彼にもっともふさわしいことである。」

目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
キリスト教放送局 FEBC のご案内	25
通信深読お申込みのご案内	26
カルメル会の企画案内	27
東京	28
京都	30
京都司教区オンライン聖書講座	32
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



聖堂(宇治カルメル会修道院)



第三卷

第三十四章 主を愛する心は、すべてにおいて、すべてにまさって主を味わう

2 神を味わう

あなたを味わっている者には、ほかの物も正しく味わえないことがあるでしょうか？しかしあなたを味わっていない者には、何の楽しみがあるでしょうか？世間に従うこの世の知恵者、地上の快樂を味わおうとする者は、あなたを味わうには至らないからです。世の知識はすべてが空しく、内には死が隠れています。しかし、世間のことを軽んじて、肉を節制し、ただあなたに従おうとする者こそ、真実の知恵者です。なぜなら、彼らは、空虚から真理へ、朽ち果てるべき肉体から不滅の霊に移されるからです。この人々にとって、神は味わい深く、被造物のなかにある善をすべて創造主への賛美に向けることができるのです。創造主の与えてくださる味わいと、被造物の与える楽しみ、永遠の楽しみと時間の楽しみ、創られたものではない光と創られた光とには、天と地ほどの相違があります。

3 神との一致を求める祈り

ああ、この世の光にまさる永遠の光よ、天上より私の心に差し込む^{こうぼう}光芒を放ってください。私の心とその能力とを清め、喜ばせ、照らし、生気を与え、この上もない歡喜のうちに、あなたに一致させてください。主よ、あなたの現存によって満ち足り、あなたが「私のすべてにおいてすべてとなる」(一コリント 15・28)、そのありがたい幸せな日々は、いつ来るのでしょうか？その日が来るまで、私には完全な歡喜はないでしょう。不幸なことに、私のなかには、まだ古い人間が生きていて、それはまだ完全に十字架にかけられず、まだ完全に死にきっていません。それはまだ、霊に反して強く逆らい、私の心に闘いを起こし、私の靈魂に平和をゆるそうとしないのです。

しかし、「海を支配し、その波のさわぎをしずめる主よ」(詩編 89・10)、「起きて、私たちを救ってください」(詩編 44・27)。「戦いを好む者を散らし」(詩編 68・31)、「彼らを打ち倒してください」(詩編 59・12)。あなたの不思議なみ業をあらわし、その右手に光榮がありますように。主なる神よ、あなた以外に私のよりどころも、のがれ場もないからです。》

新しい年にあたり 主の祝福をお祈り申し上げます



主があなたを祝福し、
あなたを守られるように。
主がみ顔をむけてあなたを照らし
あなたに恵みを与えられるように。

主がみ顔をあなたに向けて
あなたに平安を賜るように。

民数記6・24~26

教皇フランシスコは、聖ヨセフがカトリック教会の保護者として宣言されてから150年を迎えるにあたって、2020年12月8日から2021年12月8日を「ヨセフ年」とすることを宣言されました。

教皇は使徒的書簡「パトリス・コルデ」（父親の心で）を発表し、イエスの養父としての聖ヨセフの優しさやあふれる愛、神からの召命への従順さ、父親としてあらゆることを受容し、創造性をもって行動した勇気、質素な労働者としての姿、目立つことがなかった生き方に触れています。聖ヨセフは「執り成しの人、苦難の時に支え、導いてくれる人」だと教皇は記しています。（中央協 HP）



新型コロナウイルス拡大危機を背景に記されているこの書簡に励まされて、救い主イエスの養父、教会の母マリアの浄配聖ヨゼフとさらに親しく生きる新しい年の日々でありますように。

伊従 信子
ノートル・ダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（38）

九^{のり}里 彰

「創造主への賛美」は、「真の謙遜」と結びついていると思われる。人が「真の謙遜」に近づけば近づくほど、その人の「創造主への賛美」は本物となっていき、もし「偽りの謙遜」にとどまっているのであれば、「創造主への賛美」は表面的なものとなり、その賛美もパフォーマンスにすぎないということになる。

アヴィラの聖テレジアは、代表作『靈魂の城』でこう述べている。。

この、おのれを知る、ということは、大変大切な点ですから、あなた方が、たとえどれほど天上的なことへと高められたとしても、決してこの点をゆるがせにしないでいただきたいありません。地上に生きている限り、謙遜ほど私どもに必要なものはないのです。（1 M2, 9）

ここでは、ソクラテスの「汝自身を知れ」ではないが、「自己認識」が「真の謙遜」と一つとなっている。真に自己を知る者は、決して傲慢ではあり得ないということである。それは、その人が神の偉大さと自分の惨めさを骨の髄まで知っているからであろう。

けれども私の考えでは、神を知るように努めない限り、私どもは決して自分をよく知るようにはなりません。神の偉大さを眺めれば自分の卑しさがよく見えます。神の清さは自分の汚れを見せ、神の謙遜を思う時、自分がいかにそれから遠いかが分かるでしょう。（同上）

要するに、「神認識」と「自己認識」は、表裏一体をなしているということである。神を知るということは、本当の自己を知ることであり、本当の自己を知るといことは、神を知ることとなる。自分の卑しさと自分の汚れ、言い換えれば自己の卑小とさ自己の罪深さを深く知るといことは、創造主である神の偉大さとまったき聖性を知ることの中で言わば同時に起きているのである。いわゆる自己欺瞞、自分が自分に対して偽ることも不可能となっているのである。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（153）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

栄光と喜び（続き）

「別の日にその修道院（訳注：トレドの修道院）の院長が、牢屋に入った時、聖人はそのひどい牢屋に苦しめられながらも、跪いて祈っていました。院長（マルドナド神父）は近づき、彼を蹴飛ばして言いました。『私が入って来るのを見ていながら、どうしてあんたは立ち上がらないのか』。聖なる神父は、「手かせ足かせで重くなっているのです、急いで立つことはできなかつたのです」と答えました。そこで院長は彼に言いました。「ところで今、何を考えていたのか」と尋ねました。聖人は、何を考えていたのか彼に答えました。「いずれ聖母の日があるでしょうから、その時にミサをささげることができればうれしいし、慰められるでしょう」と。院長は、「そんな日はあんたにはこないだろう」と答え、ミサをささげるために聖人を（牢屋の）外には出さないということによって彼を非常に悲しませ、牢屋を去りました。

ああ、牢屋の外でのヨハネ修士の実現しなかつたミサ、そのミサに私はどれほど与りたかつたことでしょう。

けれども彼の修道生活や信仰生活の中で、もっとも悲愴な場面の一つは、彼の死の前夜のことでしょう。その場にいたディエゴ・デ・ヘススは、こう私たちに物語っています。「…その同じ日（12月13日）、臨終のご聖体を受けて2時間過ぎた時、彼は院長に、御聖体を礼拝するために持ってきてほしいと優しく頼みました。私はそこにいたのですが、聖人は、その場にいたすべての人々をご聖体への信心へと誘うような、やさしく信心深い言葉をたくさん言い、別れを告げるようにこう言いました。「もう主よ、あなたをこの肉体の目で再び見ることはないでしょう」。（続く）

(P. 九里訳)



公現の祭日（B）

（マタイ 2：1－12）

公現の祭日は、主が全ての民にご自分を現わされたことを祝う日です。これは新たに生まれた王を崇めるためにやって来た Magi（占星術の学者）によって表されています。Epiphany（公現）は、Manifestation（出現）を意味するギリシャ語からきています。

伝統的には Magi は三人で、名前はガスペール、バルタザール、メルコアールといわれています。ガスペールは会計係を意味し、バルタザールは神が王を保護する意味を、メルコアールは荘厳を意味しています。彼らは幼子イエスへ案内する星に導かれてやって来ました。この星の光は希望、喜び、平和の象徴です。この Magi とイエスの誕生の物語は、イエスの生涯にそれから起きる出来事を示しています。メシアであるイエスはイスラエルには拒絶され、異邦人に受け入れられます。ヘロデ、祭司長、律法学者たち、そして全エルサレムは、メシアである王を拒絶するユダヤ人を表しています。Magi は、メシアである王の神的な現存を認めそして受け入れた異邦人を象徴しています。

Epiphany は、イエスの王であり救い主の啓示であり、また異邦人への神の啓示でもあります。私たちキリスト者はイエスに従っていく者として、Magi たちのようにイエスを崇めるように求められています。私たちは皆それぞれがイエスを礼拝し、崇め、イエスの言葉を宣言する義務を担っています。Magi は彼らに現れた星を通して言葉を聞き、「王」を探しに来ました。キリスト者である私たちは、たびたび信仰が大きなお恵みであることを感謝せず当たり前のことと考え、それをういずにいます。コロナ・ウイルスのパンデミックの非常に危険な事態のさ中にいますが、信仰を失わず、よい日が来るのを希望しましょう。幼子イエスとの出会いが、さまざまな不便や困窮を喜んで受け入れさせ、私たちを力づけてくれるでしょう。私たちの王であるイエスのメッセージを宣言するために、見出したものを守りましょう。私たちは Magi から学びます、彼らは初めて旅をしました。星が見えなくなったときでも、強い信仰を保ち、希望を失いませんでした。星が再び出てきたとき、探索を続けました、彼らのように私たちもイエスと会いましょう。

公現の祭日は、私たちが皆神の愛する子供であると教えます。全ての人がお互いに兄弟姉妹であるということです。神はわけ隔てがなく、私たちは皆、神に選ばれた民です。私たちの王であり救い主であるイエスへ私たちが導く人生の星は何でしょう、考えてみましょう。

(Sr. Paulina)

主の洗礼

(マルコ 1 : 7-11)

イエスが洗礼を受け、水から上がられると、天が裂け、霊が鳩のように降って来ました。そして、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が聞こえてきました。

「イエス」、「聖霊」、「父」という三者の絆が示されたのです。洗礼という、水の中に沈んで上がるという儀式をとおして、天は開き、三位一体の神秘が現れました。

ヨハネは「わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる」と言いました。イエスのこの洗礼の出来事は、私たちがイエスによって授けられる洗礼の恵みを先取りするものです。

イエスは神の永遠のみ言葉です。神はイエスによって語られました。イザヤの預言はこう述べています。

「雨も雪も、ひとたび天から降れば、むなしく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ、種蒔く人には種を与え、食べる人には糧を与える。そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も、むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす。」(イザヤ 55・10-11)

神の言葉として天から降られたイエスは、雨が大地を潤し、芽を出させるように、私たちを潤し、収穫をもたらして天に戻られました。私たちに洗礼を授けるために十字架につけられ、復活されたのです。

「この水を受けたすべての人は、救いの喜びに声を上げて歌います」。その人々の上にも天が開き、神の愛である霊が注がれ、父のいつくしみ深い声を聞くからです。「あなたもわたしの愛する子である」と。イエスと共に「アッバ、父よ」と呼びかけることのできる地平に立つことが出来たからです。

イエスという第二のアダムによって(1コリ 15・45-49)、閉ざされていた楽園の扉(創 3・23-24)が開かれました。私たちは、この新しい地平で愛を生き、平和の実りを結んでいくようにと招かれたのです。

イエスはそのために人類の一員となり、その頭として、率先してヨハネから洗礼を受け、十字架と復活という頂点を目指して福音宣教を始めていくのです。
(今泉健 神父)

年間 第2主日 (B)

(ヨハネ 1 : 35 - 42)

本日の福音では、洗礼者ヨハネは、キリストを証しすることが自分の役割だとみなす謙虚な方として登場します。ヨハネは、「見よ、神の子羊だ」とイエスを証しして、弟子たちをキリストへと導きます。「神の子羊」という称号は、私たちにとってとても大切なものです。なぜなら毎回ミサの中で、パンを割く時に、ヨハネが教えてくれた通り「神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ」と唱えるからです。私たちは、この短い祈りを通じて、神の子羊であるイエスのアイデンティティと目的を宣言します。自らを生贄として捧げたイエスの生涯と愛によって、私たちは、子羊イエスが打ちひしがれたこの世界にやって来られ、今も来られる方だと信じるのです。

ヨハネの言葉を受けてイエスについて行った2人の弟子たちに、イエスは「何を求めているのか」と尋ね、弟子たちは「ラビ、どこに泊まっておられるのですか」と質問しました。イエスは長々と説明する代わりに、「来なさい、そうすれば分かる」と答えます。弟子たちは、イエスと彼の住まいについて体験的に知り、イエスとの体験を通じて自分たちの信仰が強められます。そしてメシアを見つけたと信じるのです。アンデレの回心は、イエスがメシアであるという信仰へとつながり、兄弟シモンをキリストの所に連れて行ってイエスの証人となった時にその回心が完成しました。シモンの名前が「岩」を意味する「ケファ」または「ペトロ」へと変えられたことは、神との新しい関係性や新しい人生の始まりを意味します。

神の召出しは贈り物であり、一人ひとりが呼ばれています。召出しには、応答し、神のために働きたいという意欲が求められます。神は、宣教師、司祭、修道者、教師、サラリーマン、家庭人、ソーシャルワーカー、医者その他として働くようにと人々を招いています。私たちはそれぞれ、誰かのおかげでイエスに導かれました。ですから私たちにも、他者にインスピレーションを与え、キリストへと導く役目があります。私たちが、自分の人生の中で、イエスの現存を個人的に体験した時、キリストの愛、平和、正義、あわれみ、いつくしみというよい知らせを他の人々と分かち合わなければなりません。

(Sr. Paulina)

年間 第3主日

(マルコ1：14-20)

今日の福音は、イエスがヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼をお受けになられた後、イエスが荒野でサタンから誘惑を受け、その後ガリラヤで宣教活動を始められた時の出来事が語られています。イエスは洗礼者ヨハネが捕えられた後でガリラヤに行かれ、公生活を、すなわち伝道を始められました。

洗礼者ヨハネは、救い主の到来を人々に準備させるため、悔い改める様人々に語り、洗礼を授けていましたが、ついに捕えられ表舞台の一線から身を引くこととなります。そしていよいよ、イエスが公の場に登場されることとなります。

イエスは、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」と人々に言われました。先月下旬、主の降誕、クリスマスを迎え、救い主の到来を祝った私たち。「時」が満ち、この世界、私たちのところに來られた救い主を歓迎した私たちですが、神の子を心から受け入れているのでしょうか。また神を心から受け入れているのでしょうか。私たちが私たちの心が神から離れていたとしたら、心から悔い改めているのでしょうか。福音を信じているのでしょうか。今日、このことが問いかけてられている様に思います。

さて福音の後半部分では、イエスと弟子になった人々との出会いが描かれています。シモンとその兄弟アンデレ、そしてゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネの2組。どちらも先ずイエスが彼らをご覧になられ、そして彼らとイエスとの出会いがあって、イエスは彼らに「わたしについて来なさい。」このように呼びかけられたわけです。

そこでシモンとアンデレ、ヤコブとヨハネはどうしたのでしょうか。イエスに従った、イエスの後についていきました。それぞれ後に残していったもの、捨てたものは、網、父と雇い人たちの様に異なりますが、イエスに従っていった訳です。

新しい1年が始まりましたね。1年の始まりにあたって、心を神に向けて神に従う者、イエスに従う者となって、新しい歩みを進めてゆきましょう。それぞれの場にあって、それぞれの状況の中でイエスに従ってゆくことができます様に。神に従ってゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

年間 第4主日 (B)

(マルコ 1 : 21 - 28)

聖マルコは、イエスの日常生活におけるある一日を描いています。説教師、教師、奇跡を行う者、祈る人、奉仕する人としてのイエスの姿です。本日の福音では、イエスが神のことばを教え、男から悪霊を追い出して癒す権威を持っていることが描かれています。人々は、イエスが権威ある者として話されたため、驚きと畏敬の念を抱きました。

こうした中、イエスは、悪魔払いという奇跡を行いました。汚れた霊に取りつかれた男がいましたが、汚れた霊は、イエスが悪魔を払う権能の持ち主であると直ちに気づいて「神の聖者だ」と言い、イエスの正体を知っていることを明らかにします。汚れた霊は、イエスに対し、なぜ悪の力を滅ぼしに来たのかと質問までし、我々にかまわないでくれ、と言います。実は、汚れた霊は、イエスに対して信仰宣言をしたわけではなく、イエスをエクソシストとして認めることで、イエスの権能を抑えようとしたのです。悪魔払いの奇跡は、神であるイエスの現存によって、悪がほろぼされるしるしです。男に取りついていた悪霊は、神の霊で満たされ、悪霊に対する権能を持つメシアとしてイエスを認めました。悪霊は、イエスのことを「ナザレのイエス」と「神の聖者」と2度、呼んでいます。

イエスは、悪霊に取りつかれていた男を自由にしました。そうです、イエスこそ、私たちの真の解放者であり贖い主です。主は、人々を解放するために来られました。神と私たちとの関係性を危険にさらし、私たちの祈りの生活を妨げ、隣人との関係を疎遠とさせ、私たちを肉体的・霊的に弱めてしまうあらゆる悪から私たちを解放してくれるように、深い信仰を持ってイエスにお願いしましょう。キリストが悪霊と悪魔に対して力があることを私たちは知っています。自分のいのちを危険にさらすような悪霊を自分の内に持っていないか、自らを省みてみましょう。もしかすると、何らかの恐怖、依存、許されていない罪、悪意、悪い態度が自分の人生を支配しているかもしれません。キリストを通じてのみ、私たちはこれら全てから解放されます。キリストが私たちを清めてくださいますよう、自分自身をキリストに捧げましょう。

(Sr. Paulina)

糸巻き棒からペンへ(60)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

野菜や果実を生産するために、また修道女たちにくつろぎを与えるために、菜園が営まれました。その中にはいろいろな花も小川のそばに植えられ、個人黙想のためにいくつかの隠遁所も造られました。すべては、時の流れの中にも永続する唯一のもの、内面の美しさの探求へと導かれています。すべてはとても単純で、とても隠遁的で、とても清潔でした。「貧しい人たちのお金で大きな家を建てるのは、良くないと思います。私たちの家はあらゆる点で貧しく、小さくなければなりません。十三人の貧しい女たちには、どんな片隅でも十分です。…裁きの日にくずれ落ちる時、大きな音がしませんように」(CE2,9)。

使徒的感性

この観想的な修道女に関して、人々が驚くことの一つが使徒的感性です。彼女は、良いカルメル会修道女として、預言者エリアを模範と見なしています。カルメル会は、絶えず「二つの精神」(列下 2・9 参照)、すなわち観想的な精神と使徒的精神について語っています。これらは、二つの標語によって示されており、カルメル会の霊性の中に絶えず存在してきました。観想的次元は、「私の仕えている主は生きておられます」(列上 17・1; 18・15) というモットーの内にその表現を見出しています。使徒的次元は、他のエリア的標語に取り上げられています。これは、現在に至るまで会の紋章に残っています。「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました」(列上 19・10,14)。カルメル会士は各自、その調和を破らないような仕方で、つまり祈りが使徒職となり、使徒職が祈りとなるような仕方で、この二つの現実を結びつけるよう、個人的な道を造らねばなりません。(続く)



(P.九里訳)

いのちの言葉 1月

わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば、
あなたがたは豊かに実をむすぶ。

(ヨハネ15・5-9)

毎年、諸教会に属する世界中のキリスト者は、イエスの望みに従い御父に「一致の賜物」を祈り求める時を共有¹しています。

イエスは一致をお望みです。「(一致しているなら) 世は、あなた(御父)が私をお遣わしになったことを、信じるようになります」(ヨハネ福音書17,21) というイエスの言葉からもそれは明らかです。一致がある時、世界は変わります。一致があるところに交わり、兄弟愛、連帯感が生まれます。一致は唯一、神からの贈り物です。そのため私たちは、信頼をもって、しかも粘り強く「一致の賜物」を御父に願わなければならないのです。

スペインで「いのちの言葉」を生きるグループの人達はこの体験をしました。彼らは、「キリスト者一致祈禱週間」の間、諸教会のキリスト者たちと共に、一致の恵みを御父に祈り求めたい、一致の架け橋になりたいと心にかけていました。その一人、マルガリータはこう書いています。「ある時、カトリック教会、東方教会、福音派教会、それぞれの教会のエキュメニズム担当者と連絡をとり、共に祈ってはどうかと提案してみました。こうして、最初はカトリック教会で、次いで東方教会において、同じクリスチャンとして心を1つにし御父に「一致」の恵みを祈ることが出来るようになりました。毎回、教会で祈っているとき、神様の臨在からくる特別な喜びに私たちの心は満たされました。神様ご自身が、一致への道を開いてくださるという体験をしています。」

さて、2021年の「キリスト者一致祈禱週間」を良く生きるために、フランスのグランシャル共同体²は次のヨハネ福音書のみ言葉を選んで下さいました。

わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば、あなたがたは豊かに実をむすぶ。

このみ言葉は、特別な期間だけではなく、この一年、さらに全生涯にわたり、私たちがキリスト者の一致のために生き、尽力するようにと招いてくれます。

キリスト教会に在る「分裂」は、深い傷です。その傷は、なによりもまず神様の憐みによって癒して頂く必要があるでしょう。しかしそれだけではなく、信仰を共にするキリスト者として互いに良く知り合い、尊敬し合い、共に福音を証していくことで癒されなければならないでしょう。

イエスは、私たちが何をすべきか示しておられます。それは、イエスの愛に「留まる」ことです。 私たちの人生をイエスにすっかり委ね、イエスの憐みを信じ、イエスと個人的な関係を深め、強めていくことです。

事実、イエスはいつも忠実に、私たちと共に「留まって」いて下さるので
すから。

同時に、イエスは、私たちも自分の人生をイエスのように御父に「贈り
物」として差し出すことをお望みです。そして、私たちもイエスに倣い、
日々出会う人にやさしく心を配り、「多くの実をむすぶ」ために、彼らの必
要に寛大に、見返りを求めずに応えていくよう招いておられます。

わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば、あなたがたは豊かに実をむすぶ。

2002年10月、ジュネーブで宗教改革500周年記念行事³が開催され
た折に、キアラ・ルービックが行ったスピーチは、心に強く響きました。
彼女は語っています。「この世界は、どれほど多くの愛を必要としているで
しょうか！イエスは、私たちの間の相互愛と一致によって世は、イエスを
認め、私たちがイエスの弟子であることを知るようになる、と言われまし
た。現代は、私たち一人ひとりに愛が求められ、一致と交わり、連帯が求
められていると私たちは理解したのです。また、何世紀にも渡り分裂して
きた教会にも一致が求められているのです。天が私たちに求める改革は「一
致」に他なりません。また私たちの間の「一致」は、すべての人を普遍的
兄弟愛へと導く最初の一步、本質的な一步となります。実際、私たちが一
つになれば、世は信じるようになります。イエスは「すべての人が一つに
なりますように、それは世が信じるためです。」とおっしゃいました。(ヨ
ハネ17,21参照) 神は一致をお望みです。たとえ、その実現を目にする
ことがないとしても、私たちは、その準備のために貢献できるようその恵
みを神様に願いましょう。」⁴

わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば、あなたがたは豊かに実をむすぶ。

レティツィア・マグリ

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

- 1 キリスト者一致祈祷週間は、毎年1月18日から25日まで開催されます。
- 2 グランシャル共同体 HP: www.grandchamp.org
- 3 宗教改革記念行事は毎年10月31日、マルティン・ルターが「95か条の論題」を掲示した日に行われています。
- 4 キアラ・ルービック「一致について」、2015年チッタノーバ誌に掲載(pp87-88)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2020年12月12日

ローマ:跣足カルメル修道会 総長館からの報告 平常生活に回復



12月3日、聖フランシスコ・ザビエルの祝日に、私たちは総長館本部で特別に嬉しい知らせを受け取りました。新型コロナウイルス感染検査の細胞分子テストで陰性の結果がでたことです。こうして、総長館で約1ヶ月間続いたコロナ感染状況は克服されました。感染者は誰もいなくなり、重症の感染者だった人たちも、今は健康を取り戻したことを神に感謝しています。

この感染と孤立の時を経て、総長館本部は徐々に業務を再開しています。12月5日に、未だパンデミックとその後遺症に苦しんでいる人々、家族、専門医療従事者、そしてコロナ禍の救済に関わり奮闘されている人々のために、初めての共同体ミサが奉げられました。

(小宮山延子訳)

カルメル誌 新刊案内



2020年 冬号 No.379

《現代に生きる祈りの伝統》**

桐生聖クララ会—新しい修道会、新しい生活
シスター・マリア・イルミナータ

信仰生活(再)入門(12) 聖書に学ぶ祈りの道(4)
—現代のための神のみことば、テレーズとともに②

片山はるひ
道の靈性(4)—幼い者の隠れた道 田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(12)
—クリスマスの歎び 伊従信子

クリスマスメッセージ 二〇二〇
ポーリン・フェルナンデス

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(12) 九里 彰

靈的研究会講義録(10)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」
—フランシスコ教皇のメッセージ—

神の愛といのちの福音を次世代に
松田浩一

教皇フランシスコの説く「平和への道」
九里 彰

司牧者のががみ 教皇フランシスコ
今泉 健

教皇フランシスコならではの視点と光
—寄留者の尊厳
大瀬高司

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を
下記へお振込み下さい

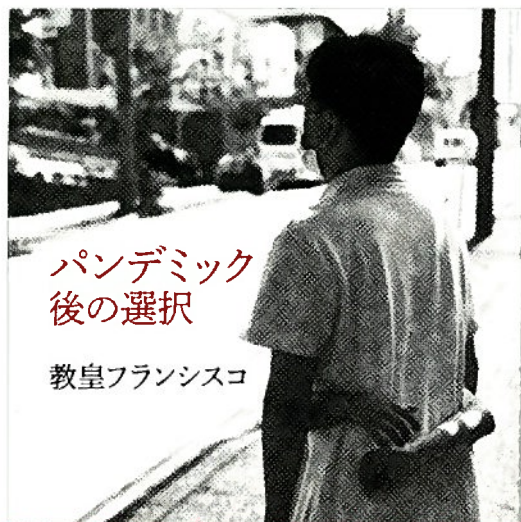
郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

※2021年度より料金が変わります(1冊580円 年間購読3,600円)

- お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

書籍案内



パンデミック 後の選択

教皇フランシスコ

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

書籍案内



生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

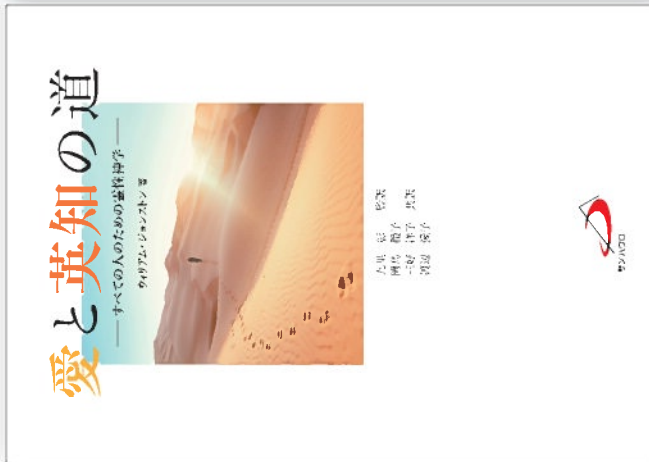
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるからたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典札暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

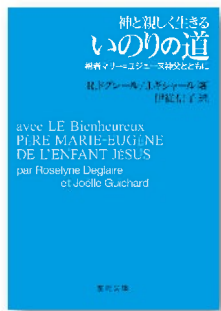
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

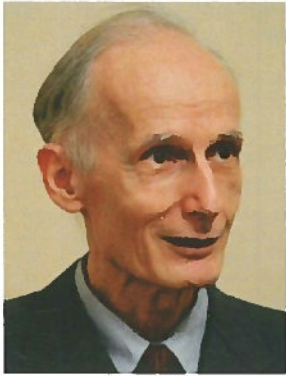
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

2020.10~2021.3

キリスト教放送局 **FEBEC**

AMラジオ放送

AM1566kHz 毎夜9:30~

インターネット放送

www.febcjp.com <毎日更新>

2020年秋冬 番組案内

日 夜9:30~

月 夜9:30~
FEBEC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

火 夜9:48~

恵子の郵便ポスト
FEBECメインパーソナリティ
吉崎恵子

水 夜9:47~

**嘆きに込める
神の御言**
金田聖治
日キ教会
上田教会牧師

木 夜9:47~

**Session
- イエスの
Tuneに
合わせて**
早矢仕宗伯
[NCAMイエスの風] 牧師
塩谷達也 コスベル
シンガー

金 夜9:37~

**イエスとの
対話の旅**
- 現代霊性神学講座 -
中川博道 カトリック・
カルメル会宇治修道院司祭

土 夜9:30~

**旧約聖書の
ころ-詩編-** (再)
雨宮慧
カトリック・東京教区司祭、
上智大学神学部名誉教授

日 夜9:30~

**全地よ主を
ほめたたえよ**
主日礼拝取材番組

[第1] 日キ教会 高知旭教会

[第2] 福音ルーテル 神水教会

[第3] 日基教団 久万教会

[第4] 日基教団 中標津伝道所

[第5] 各地の教会

[第1] 夜10:25~

外からの「声」
- FEBC HANGOUT! -

[第1] 夜9:47~

**「時のしるし」を
求めて コロナ時代の
教会の模索**

[第3~4] 夜9:37~

**闇の中は輝く
「獄中書簡」** (再)
小林和夫 ホーリネス
東京聖書学院教会牧師

[第3~4] 夜10:20~

**Meguの
CCM insight!**

[第1] 夜9:47~

**Session
- イエスの
Tuneに
合わせて**
早矢仕宗伯
[NCAMイエスの風] 牧師
塩谷達也 コスベル
シンガー

[第2] 夜9:47~

**ザ・ストーリー
- 一冊の本に
込められた
思い
服部みぎわ**

[第1] 夜9:47~

**主に向かって
歌おう**
飯 靖子
日基教団 霊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

[第1] 夜9:47~

**マイ・
プレイリスト**

[第1] 夜9:47~

**Echo of
Voices**
長倉崇宣

[第1] 夜9:47~

**神父さま、
こんにちは
聞いても
いいですか?** (再)
百瀬文晃
カトリックイエス会司祭
お相手・吉崎恵子

[第1] 夜9:47~

御足の跡を
小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所牧師

[第2~5] 夜10:27~

**神からの
メッセージ**
グレゴリオ聖歌
橋本 周子
聖グレゴリオの家
宗教音楽研究所長

[第1] 夜9:30~

黙想のとき (再)
主よ、共に宿りませ
安保ふみ江

[第3~4] 夜9:37~

聖書を開こう
山下正雄
RCMメディア
ミニストリー代表

[第3~4] 夜9:37~

**イエスから
始めよう**

[第3~4] 夜9:37~

**「時」のしるしを
求めて コロナ時代の
教会の模索**

[第3~4] 夜9:37~

**闇の中は輝く
「獄中書簡」** (再)
小林和夫 ホーリネス
東京聖書学院教会牧師

[第3~4] 夜9:37~

**外からの「声」
- FEBC HANGOUT! -**

[第3~4] 夜9:37~

**Session
- イエスの
Tuneに
合わせて**
早矢仕宗伯
[NCAMイエスの風] 牧師
塩谷達也 コスベル
シンガー

[第3~4] 夜9:37~

**ザ・ストーリー
- 一冊の本に
込められた
思い
服部みぎわ**



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2021年～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

4月1日(木)夕食～4月4日(日) 朝食 《講話なし、各食3付》

【クリスマス】

12月24日(金)～25日(土) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) 大瀬高史 神父

2月27日(土)～28日(日) 10月 2日(土)～ 3日(日)

4月24日(土)～25日(日) 11月27日(土)～28日(日)

5月29日(土)～29日(日) 2022年

7月 3日(土)～ 4日(日) 1月 8日(土)～ 9日(日)

8月28日(土)～29日(日) 3月12日(土)～13日(日)

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

1月20日 2月17日 3月17日 4月21日

5月19日 6月16日 7月21日 9月22日

10月20日 11月17日 12月15日

2022年 1月19日 2月16日 3月16日

- ・一泊黙想会 (土曜日17時～日曜日16時) カルメル会士

1月23日(土)～24日(日)今泉健神父 11月27日(土)～28日(日)

3月13日(土)～14日(日)今泉健神父

5月22日(土)～23日(日) 2022年

7月24日(土)～25日(日) 1月29日(土)～29日(日)

9月25日(土)～26日(日) 3月12日(土)～13日(日)

- ・ 奉獻生活者のための黙想会（初日 17時～最終日朝食） カルメル会士
 8月 1日(土)～10日(月)
 8月16日(日)～25日(火)
 12月27日(日)～1月 5日(水)
- ・ 青年黙想会(男女) 35歳まで(初日 16時～翌日 16時) カルメル会士
 2021年 3月26日(金)～28日(日)
 2022年 3月25日(金)～27日(日)
- ・ 召命黙想会(男女) 40歳まで(初日 16時～翌日 16時) カルメル会士
 11月 5日(金)～7日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(対象男子) (土曜日 16時～日曜日 16時)カルメル会士
 4月10日(土)～11日(日) 2022年
 6月12日(土)～13日(日) 2月26日(土)～27日(日)
 10月 9日(土)～10日(日)
 12月11日(土)～12日(日)
- ・ 特別黙想会(初日 20時～最終日 16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
 6月18日(金)～20日(日)
 11月12日(金)～14日(日)
- ・ キリスト教霊性入門(10時～16時 昼食付) 松田浩一神父
 1月14日(木)
 2月10日(水)
 3月11日(木)

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2021年度)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

1/30～31 2/13～14 6/5～6 7/17～18
9/18～19 10/30～31

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

1/9 2/6 3/6 6/26 7/24 9/4
10/2 11/6 12/18

【水曜黙想会】 (第3水曜日) (午前10時～午後4時)

2/17 3/17 4/21 5/19 6/16 7/21
9/15 10/20 11/17 12/15

(6/20 7/21 11/17 カルメル宣教修道女会 Sr. ロサ)
他すべて 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

5/1 (土) 午後5時～5/8 (土) 午前10時

参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/2 (土)～3 (日)

十字架の聖ヨハネ 12/11 (土)～12 (日)

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

1/12 (火)～21 (木) 中川博道神父

7/29 (木)～8/7 (土) 中川博道神父

8月 (日時未定) 大瀬高司神父

(決まり次第HPでお知らせします)

9/20 (月)～29 (水) 中川博道神父

11/8 (月)～17 (水) 中川博道神父

12/27 (月)～1/5 (水) 中川博道神父

【待降節黙想会】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

12/4 (土)～5 (日)

【祭日のミサに参加するために】

*<聖週間を祈る>

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*<クリスマス>

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時~午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

京都司教区オンライン聖書講座

ZOOM

コロナの時代に聖書を生きる

—混沌への光を探して— (全5回)

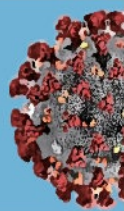
講師：中川博道 神父様

(カルメル修道会)



日時：2020年10月 8日(木) 10:30～11:50
11月12日(木) 10:30～11:50
12月10日(木) 10:30～11:50
2021年 1月 7日(木) 10:30～11:50
2月 4日(木) 10:30～11:50

聖書を生きる



申込方法：メールにて seisho@kyoto.catholic.jp までお名前、ご住所、所属教会（信徒の方）をお書きの上、お申込みください。お申し込み後、会費をお振込みください。お振込の確認が出来次第、こちらから受付完了と ZOOM 招待の URL を付けたメールをお送りいたしますので、当日はご自宅などよりご視聴ください。受講の際の詳細につきましては、メールに記載いたします。

申込締切：9月25日（会費の振込とメール送信はどちらが先でも構いません）

会 費：全5回分 1,000円 郵便振替にて9月25日までに下記宛
口座番号 00910-9-148401 カトリック京都司教区聖書委員会

お問い合わせ：カトリック京都司教区聖書委員会

TEL / 075-366-6609 (水、木の10:00～16:00)

FAX / 075-366-6679

e-mail / seisho@kyoto.catholic.jp

主 催：カトリック京都司教区聖書委員会

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2021年 — 祈りの集いのご案内

「祈りの実り：イエス様と共に、 イエス様のように生きること」

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

1月14日 柔和な師イエスに習う(マタイ11・29)

2月11日 謙遜な師イエスに習う(マタイ11・29)

3月11日 十字架を背負っているイエス様に従う(ルカ14・27)

4月 8日 神の国でキリストと共に食事の席に着く(ルカ22・30)

5月14日 給仕するイエス様に学ぶ(ルカ22・27)

6月10日 「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」
(ヨハネ14・34)

7月 8日 祈るイエス様に習う(ルカ11・1)

* * *

9月 9日 「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

10月14日 「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

11月11日 ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に(ルカ7)

12月 9日 「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを
私のもとに迎える」(ヨハネ14・3)



※個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ	2021年 1/17(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
フォローアップ 新I	1/24(日) 9:30-17:00	サダナチーム	同上 * 16時～ミサがあります * 椅子での黙想です	同上
サダナII	2/10(水)17:30- 14(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道 会・町田修道院(町 田市本町田)	同上
サダナI	2/20(土)17:30- 23(火)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (町田市桜町)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナI : サダナ1において、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じることと心の静まりを入り口として、深みに進みます。

◆サダナII : サダナ1の土台を生かしながら、さらに奥へ、高みへと向かいます。

◆フォローアップ…サダナIを終えた方。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2021年度予定

~~1月21日（木） 3月25日（木）~~ 中止

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、再度中止となりました。

4月以降については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あしがき . . . つぶやき . . .

新年あけましておめでとうございます。

『靈性センターニュース』読者の皆様の上に、主の祝福と平和をお祈りしております。

2021年を迎えました。

過ぎ去った一年の中で、インパクトのある事柄の一つは、パンデミックの中で、ほとんど毎日のように、様々なメッセージを発しつつけられた教皇フランシスコのお姿とそのお言葉です。

(参照：バチカン・ニュース <https://www.vaticannews.va/ja.html>)。

パンデミック終息の目途がまだ立たない中で始まった今年、あらためて教皇フランシスコの昨年八月の一般謁見での呼びかけのお言葉がよみがえってきます。「パンデミックの危機から脱した後、前より良くなるか悪くなるかです。これがわたしたちの選択です。考えてみようではありませんか」。

この教皇のお言葉を受け止め考えるための指針を、教皇はすでに整えてくださっているように思います。特に、『ラウダート・シ』と、その発刊5周年に発表された回勅「Fratelli tutti (兄弟である皆さん)」です。

「Fratelli tutti」は、「すべての兄弟姉妹に向け、福音の味のする生活の形を彼らに提案するために」語り掛けた聖フランシスコの呼びかけです。この中で、兄弟愛と社会的友愛をテーマに、「ともに暮らす家を大切に」するための道筋が示されています。Covid-19によるパンデミックの中で、世界の兄弟愛と社会的友愛の希求を促すことを目指し、「誰も一人で自分を救えない」世界危機の前で、わたしたち皆が兄弟姉妹として、「ただ一つの人類として夢見る」時がついにやって来たことを示します。

遺伝子的には0.1%以下の違いしかないといわれるあらゆる人種を超え、宗教を超え、文化・国家を超えてともに考える時が来ていることを実感しています。

Fr.中川博道 o.c.d.

